

私たちが取組む社会貢献活動

良き企業市民として、健全な社会の発展に貢献することを目指し、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

健康・福祉 保健文化賞 (財)心臓血管研究所 (財)姿勢研究所	地域社会貢献 ボランティア活動 (マッチングギフト制度) 黄色いワッペン 贈呈事業	芸術・文化 VOCA展 第一生命ギャラリー 第一生命ホール	教育・調査 ファイナンスパーク 寄付講義・共同研究 (財)国際保険振興会 (財)矢野恒太記念会	生活環境 (財)第一住宅建設協会 (財)地域社会研究所	スポーツ 全国小学生 テニス選手権大会
---	--	---	--	--	----------------------------------

社会貢献活動の取組方針

第一生命は、社会性・公共性の強い生命保険事業を通じて、豊かで安心感あふれる生活・社会づくりに努めており、自らが地域社会の一員であることを意識し、ともに「良き企業市民」として発展することを目指しています。

- 社会貢献活動の分野は「健康・福祉」、「地域社会貢献」、「芸術・文化」、「教育・調査」、「生活環境」、「スポーツ」の6つとします。
- 社会貢献活動の基本コンセプトは「育てること(育成)」、「続けること(継続)」とします。
- 時代の要請を反映しながら、社会貢献活動の「振り返り・見直し」を定期的に行い、さらに付加価値の高い活動を目指します。

健康・福祉

生命保険会社の使命のひとつとして、人々の健康や福祉の向上に貢献すべく取り組んでいます。

保健文化賞

戦後の混乱期、保健衛生の思想や施設が悪化している中であって、それらの向上に取り組む人々に感謝の意を捧げるために創設したのが「保健文化賞」です。昭和25年の創設以来、毎年実施され、今年で第60回を迎えました。毎年秋に贈呈式を行い、受賞者は翌日皇居に参内して天皇皇后両陛下に拝謁を賜っています。平成20年度は10団体、個人6名が受賞。これまでの受賞者は585団体、個人301名に達しています。時代の流れとともに課題も変化し、現在では保健医療、地域保健、生活環境、高齢者福祉、国際保健等、多岐の分野にわたっています。



【第60回保健文化賞(平成20年度)受賞者】

受賞者名	都道府県	受賞者名	都道府県	受賞者名	都道府県
社団法人 葛飾区歯科医師会	東京都	飯伊地区包括医療協議会	長野県	大谷 貴子 氏	埼玉県
全国心臓病の子どもを守る会	東京都	NPO法人 愛知視覚障害者援護促進協議会	愛知県	高野 健人 氏	東京都
NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク	東京都	山口県宇部市	山口県	徳永 瑞子 氏	東京都
日本組織移植学会 東日本組織移植ネットワーク、西日本組織移植ネットワーク	東京都・大阪府	熊本県食生活改善推進員連絡協議会	熊本県	大國 美智子 氏	大阪府
ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト	神奈川県	社会福祉法人 玉医会 氏	熊本県	知念 正雄 氏	沖縄県
		小林 博 氏	北海道		(敬称略)

受賞理由は当社ホームページをご覧ください。 <http://www.dai-ichi-life.co.jp/> (ホーム) > 第一生命について > 社会貢献活動 > 健康・福祉 > 保健文化賞

the Voice

第60回 保健文化賞受賞 小林 博 様

第60回保健文化賞が授与されましたことは、この上ない名誉であり、大きな喜びとするところでございます。私自身はがんを専門とする病理学者で、大学で長年がんの研究に没頭しておりました。退職後は、別の角度から世の中の人々の健康、安全、幸福に直接役立つ仕事をしたいとの思いに駆られ、スリランカを舞台に、がんなど生活習慣病予防の仕事を始め、現在も努力を続けております。各受賞団体・個人におかれましては、それぞれ様々ご苦労を重ねて今日に至ったものと存じます。辛いことも多々あったと思いますが、相手の喜ぶ姿を見てその相手の喜びが自分自身の喜びと感じ努力されてきたものと考えております。今後とも受賞の喜びとその責任の重みを後世に伝えるためにも努力を重ね、この榮譽に恥じないよう精進してまいりたいと存じます。



保健文化賞は、今年で60回目を迎えました。

【保健文化賞の歴史】

昭和10年7月 結核対策の一助として財団法人保生会を設立
昭和14年9月 保生会のすべての施設と事業を結核予防会に引き継ぎ、解散
戦 後 GHQより、生命保険会社全体で国民保健の向上に寄与する施策を検討するよう依頼があり、社長矢野一郎が第一生命1社で実行するよう決意
昭和24年6月 第一生命の社員総代会にて保健文化賞設立を決議
昭和25年1月 保健文化賞設立趣意書を設定
昭和25年3月 厚生省、朝日新聞厚生文化事業団の後援のもと、朝日新聞東京本社講堂にて第1回贈呈式を開催
昭和34年(第11回) 10周年を機に天皇皇后両陛下の拝謁が始まる
昭和37年(第14回) NHK厚生文化事業団が後援に加わる
昭和48年、平成10年 25年および50年にわたる保健衛生の発展向上に寄与した功績により、厚生大臣より感謝状を授与される



■(財)保生会の保生会館本部建物
昭和14年以降、結核予防会本部および健康相談所として使われ、現在でも建物内では「第一健康保健相談所」の名で活動が続けられています。



■昭和25年、朝日新聞東京本社にて開催された第1回贈呈式
戦後日本の保健政策に足跡を残すGHQ公衆衛生福祉局長サムス准将、厚生大臣らも出席して、朝日講堂にて第1回贈呈式がとり行われました。



■皇居における天皇皇后両陛下の拝謁を賜る第60回受賞者
昭和34年、賞の意義が認められ、受賞者は天皇皇后両陛下の拝謁を賜ることになりました。以来毎年、受賞者は皇居に参内しています。



■平成10年、厚生大臣より感謝状授与
発足時より選考などには厚生省(現・厚生労働省)の大きなご協力をいただき、50周年を機に感謝状も授与されました。

財団法人 心臓血管研究所

この財団は、心臓病が戦前の結核に匹敵する国民健康上の重要問題になると予想し、また、日本には専門研究機関が欠けていた状況にも合わせ、循環器疾患の研究・予防・診断および治療を目的として昭和34年に設立されました。設立以来、循環器疾患に関する専門研究機関として多くの研究論文を発表し、治療成績の向上に寄与しています。近年の研究活動としては、平成16年度より、付属病院における豊富な臨床例を「心研データベース」としてデータベース化し、循環器医療が解決すべき課題の明確化と、新たな医療の開発を推進しています。平成20年3月の日本循環器学会では、「心研データベース」関連の演題採択が前年実績を大きく上回る11題に達し、存在意義はますます高まっています。また、併設する付属病院では心臓病に関する各専門分野の優秀なスタッフを配し、内科・外科両面にわたって高度で先進的な専門医療を提供しています。

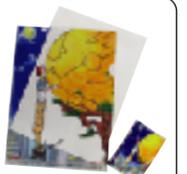


財団法人 姿勢研究所

姿勢と健康の持つ意義と重要性を広く伝えるため、機関誌「POSTURE」を毎年発行しています。

社会貢献ノベルティ

障がい者の職場の拡大を推進している第一生命の子会社「第一生命チャレンジド株式会社」職員の福田英子さんが描いた作品を「ビニールファイル」「ポケットティッシュ」に使用し、ノベルティとしてお客さまにお配りしています。売上げの一部は社会福祉法人 日本介助犬協会に寄付され、障がい者福祉に充てられています。



地域社会貢献

全国各地で地域に根ざした社会貢献活動に取り組んでいます。

ボランティア活動を支援する「マッチングギフト制度」 地域社会への感謝の気持ちを込め、職員がグループで地域の清掃、チャリティバザー、募金活動等、自発的な地域社会貢献活動(ボランティア)に取り組んでいます。これらの活動を支援し推進するため、平成4年度にマッチングギフト制度を導入。この制度はボランティア活動で集めた募金等の金額に会社が一定額を上乗せ(マッチング)し、ボランティア団体や施設に寄付(ギフト)するものです。平成19年度は、全国79支社・部門で活用されました。また、社内の「社会貢献活動表彰」において、「ボランティア大賞」「ボランティア特別賞」の表彰も行っています。

平成19年度「社会貢献活動表彰」受賞グループの活動

ボランティア大賞 **金沢支社**
地域の自然保護のための植林活動など
 地域の森と川と海の健全な関係を取り戻そうと、植林活動、海岸清掃活動を実施しています。募金による苗木500本を植えたほか、チャリティバザーを開催して苗木購入資金を拡充しました。



ボランティア大賞 **豊橋支社**
児童福祉施設へのプレゼント贈呈訪問・寄付
 サンタに扮した職員が児童養護施設や母子寮を訪問し、クリスマスプレゼントを届ける活動をしています。職員からの寄付金でプレゼントを購入し、集めた古着とともに4ヶ所の施設へ届けました。



ボランティア特別賞 **長野支社**
チャリティバザー
 地元農家から野菜や花などをご提供いただき、地域に根ざしたバザーで、21年間継続しています。障がい者施設の作品販売なども行い、売上金は学校や障がい者の訓練施設等に寄付しました。



ボランティア特別賞 **大阪中央支社・大阪サービスセンター・大阪契約課・大阪支社事務課・大阪保険全課**
清掃活動、チャリティバザーなど
 大阪市と連携して毎月2回清掃活動を行い、美化啓発活動として携帯灰皿・ポケットティッシュを配布。チャリティバザーも行い、複数部門による合同グループでの活動で、所属間の相互理解も深めました。



全国で取組みました!
 「あしながPウォーク10」は、遺児学生らが全国47都道府県(約60コース)で年2回開催しているボランティアウォークです。このほか全国各地域で、古切手・使用済みプリペイドカードの収集活動に取り組めました。

あしながPウォーク10	
○19部門(779名)参加	346,100円寄付
収集活動(49部門参加)	
○古切手の収集区	176.7kg
○使用済みプリペイドカードの収集	201,356枚



「黄色いワッペン」贈呈事業 全国の新入学児童に交通事故傷害保険付きの「黄色いワッペン」を贈る事業に、第一生命は平成15年より参画。現在は(株)みずほフィナンシャルグループなど4社で実施しています。




■「黄色いワッペン」贈呈式終了後の交通安全教室

芸術・文化

芸術・文化の発展を願い、良質な美術・音楽の提供および若い芸術家の育成に取り組んでいます。

VOCA展・第一生命ギャラリー 平面美術の領域で将来性のある若手作家を育成し、美術界の活性化を目的とした「VOCA(ヴォーカ)展」。第一生命は、初回の平成6年より支援しています。第15回を迎えた「VOCA展2008」には全国から36名による力作が展覧されました。優秀作品には賞が贈られ、VOCA賞、VOCA奨励賞受賞作品は、当社が所蔵しています。また、当社の日比谷本社1階には南北2つのギャラリーを開設。南ギャラリーでは、「VOCA展」の受賞作品を常設展として公開するとともに、受賞作家の個展等も開催しています。また、北ギャラリーでは現代洋画界を代表する故脇田和画伯の作品を常設しています。いずれも入場無料で、一般の方々に気軽に美術鑑賞をお楽しみいただいています。 ※ VOCA : The Vision of Contemporary Art (現代美術の展望)

●VOCA展2008 受賞者

VOCA賞	横内 賢太郎 (京都府京都市)
VOCA奨励賞	川上 幸之介 (イギリス ロンドン) 笹岡 啓子 (東京都杉並区)

(敬称略)



■VOCA展2008 VOCA賞受賞 横内 賢太郎 「Book-CHRI IMOCE」「Book-CHRI FFTC」

●第一生命ギャラリー

住 所: 東京都千代田区有楽町1-13-1 第一生命本館1階
 開館時間: 12:00~18:00
 休 館 日: 土・日・祝日(夏期・年末年始および展示替えによる休館あり)

the Voice 第10回VOCA展 VOCA賞受賞 津上 みゆき 様

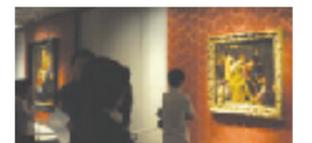
VOCA展は、絵画を学ぶ当時学生だった私たちにとって憧れであり、今を生きる作家のこれぞという作品群の壮観な光景を見ることのできる展覧会でした。ですから10年目のVOCA賞をいただいたときは非常に感慨深く、また新たなスタート地点に立てたと、身が引き締まる思いでした。さらに、受賞者に与えられる第一生命ギャラリーでの個展という機会は、私の経歴を語るうえで欠かせない貴重な経験となりました。作品世界に誘うに十分な魔法が備わった、天井の高いギャラリー空間で、これからより多くの方々にVOCA展とその作品に出合っていたいだきたいと思えます。



■太郎知恵蔵展(南ギャラリー)

「フェルメール展」(平成20年8月2日~12月14日)への協賛

17世紀オランダ絵画の巨匠ヨハネス・フェルメール。その代表作品のほか、生涯を過ごした懐旧の地・デルフトの芸術的風土から生まれたデルフト派の作品約40点を一堂に集めた「フェルメール展(東京都美術館)」に特別協賛しました。



第一生命ホール

昭和27年に誕生して以来、「貸しホール」の草分けとして音楽・演劇・落語等を上演してきた第一生命ホール。平成13年には東京・晴海に新装移転しました。同ホールでは、第一生命が全面的に支援しているNPO法人「トリトン・アーツ・ネットワーク(TAN)」が自主公演を企画・実施しており、地域へ音楽をお届けするコミュニティ活動にも力を注いでいます。



■第一生命ホール



■TANのアウトリーチ活動

●東京都中央区晴海1-8-9 晴海アイランドトリトンスクエア内

教育・調査

生命保険の普及と発展を願い、教育・調査活動を推進しています。

子どもたちへの経済教育「ファイナンスパーク」への協賛 京都市教育委員会と経済教育団体ジュニア・アチーブメントの共催事業・中学生向けプログラム「ファイナンスパーク」に協賛。仮想の街で1年間の生活設計や収支計算を体験するプログラムです。第一生命ブースでは、生命保険の仕組みや役割を分かりやすく伝えています。



■「ファイナンスパーク」学習風景

産学連携の寄付講義・共同研究 平成19年4月より一橋大学大学院商学研究科MBAコースの寄付講義を提供。産学連携の共同研究も続けています。平成20年度は「金融保険数理」の寄付講義を開講。当社グループの職員が教壇に立ちました。また、平成20年度より損害保険ジャパンと共同で明治大学法科大学院にて「保険法」の寄付講義を提供しています。



■一橋大学での寄付講義

財団法人 国際保険振興会(略称:FALIA) アジアを中心とした諸外国の保険事業の発展を目的に、国内および海外で保険事業関係者を招いてセミナーを開催しています。国内セミナーの参加者は平成20年度に累計3,000名を超えました。事業を通じて国際相互理解を促進しています。



■トップエグゼクティブセミナー

the Voice 研修生の声 研修参加者と講師から多くの経験を得て知識共有できました。帰国後は、この経験を職場仲間と共有し、このコースに参加することをすすめたいと思います。(平成20年6月「ITコース」参加者アンケートより)

財団法人 矢野恒太記念会 第一生命の創立者である矢野恒太の事業を顕彰するため、創立50周年事業の一環として、昭和28年に設立されました。統計・数理等の学術研究に対する援助、奨学金制度の運営、農業振興者の表彰などを行っています。中でも昭和2年から刊行している「日本国勢図会」は、国内統計を総合的に収集した統計書のベストセラーで、学習参考書や入試問題にも役立てられています。



生活環境

潤いのある生活環境を目指し、人々が暮らしやすい社会づくりのための調査・研究に取り組んでいます。

財団法人 第一住宅建設協会 居住環境の整備や住生活の向上に関する調査研究と啓発を軸に、それらへの助成と機関誌「city & life～都市のしくみと暮らし」を年4回発行しています。

財団法人 地域社会研究所 都市・農村・家族・保健衛生・少子高齢化問題など、幅広い分野での提言を内容とした機関誌「The Community」を年2回(5・11月)発行しています。

スポーツ

次世代を担うスポーツプレーヤーの育成を支援しています。

全国小学生テニス選手権大会 昭和58年、「日本を代表する選手を育成するにはジュニアから」という財団法人 日本テニス協会の趣旨に賛同し、「全国小学生テニス選手権大会」への支援を開始、平成20年度で第26回を迎えました。資金的な援助、グラウンドの提供を行っています。杉山愛さん、錦織圭さんなど国際的に活躍する選手もこの大会の出場者です。



■男子シングルス優勝
松村 亮太郎 くん

第26回全国小学生テニス選手権大会			
男子シングルス	優勝	松村 亮太郎	福井市立日之出小(福井)
	準優勝	中川 直樹	福津市立福岡南小(福岡)
女子シングルス	優勝	玄田 夏楠	津幡町立英田小(石川)
	準優勝	渡辺 仁美	調布市立滝坂小(東京)

(敬称略)

これも第一生命の活動です

サラリーマン川柳コンクール

“サラ川(サラセン)”の愛称で親しまれている「サラリーマン川柳コンクール」を毎年実施しています。昭和62年からスタートし、平成20年で22回目を迎えました。毎回、全国のサラリーマン・OL・主婦などさまざまな方から、職場やご家庭などの日常生活の中で日頃感じている“喜怒哀楽”を、5・7・5の川柳にしてご応募いただけます。入賞作はマスコミのニュースにも取上げられ、世相を映すユーモラスな「鏡」として話題を振りまきます。第21回は、「全国優秀100作品」とは別枠で、「地球温暖化防止(エコ)」「育児」に関する作品も紹介しています。



【第21回 第一位】
「空気読め!!」それより部下の 気持ち読め!!
のりちゃん

夏休み子どもミニ作文コンクール

今年で26年目、毎年約20万件の応募実績がある「夏休み子どもミニ作文コンクール」を今年も実施しました。朝日学生新聞社とタイアップし、優秀作品は新聞で発表されました。平成20年度は保護者の方を対象とした「おじさまとの心温まるエピソード」も募集しました。コンクールを通して夏休みのご家族のコミュニケーション作りに貢献したいと考えています。



大人になったらなりたいものアンケート

「夏休み子どもミニ作文コンクール」の応募用紙に「大人になったらなりたいもの」アンケート欄を設けています。平成20年4月に、平成19年度のデータ計993点の内容を集計・分析した結果をプレスリリースしました。平成19年の1位は、男子:野球選手・女子:食べ物屋さんでした。